

## 『がん地域連携クリニカルパス』について

がん診療連携拠点病院では、多くの地域医療機関と協同でがん治療にあたる体制を構築しています。

日本人が発生する頻度の高い部位(肺、胃、肝臓、大腸、乳房)に出来るがんを5大がんと呼んでいます。

当院では5大がんに対して、手術などの入院治療が終了した後の安定した患者さんについて、その後の期間を当院専門医とかかりつけ医の両者が、役割分担して外来治療や経過観察を行っていきます。

具体的には、当院とかかりつけ医との間であらかじめ数年先までの診療方法を定めた計画書に沿って行います。この計画書を利用できれば、いつでも、どこでも、どなたでも、同じ医療を受けることができます。この計画書を地域連携クリニカルパスと呼んでいます。

ただ、使用にあたっては対象となる疾患が限られており、病状によって適応にならない場合もあります。

対象となる患者さんには担当医や担当スタッフからご案内させていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。(利用するかしないかは自由です。強制はいたしません。)

その他、ご不明の点や詳細については、病棟スタッフまたはがん相談支援センターにお問い合わせ下さい。

～こんなメリットがあります～

専門病院とかかりつけ医が共同で診療にあたる事になるので、

☆主治医が2人になり、異常の早期発見や、きめ細かな対応ができる。

☆遠方にお住まいの場合は、お近くの連携先医療機関で診療できる。

当院には、年に数回受診するだけです。